

集落営農法人が主体となって取り組むイノシシ・サル対策

1 要旨

岩国市美和町志谷地区は、岩国市北部に位置する中山間地域であり、水稻を中心に岸根栗の生産や加工品の製造・販売などが行われている。

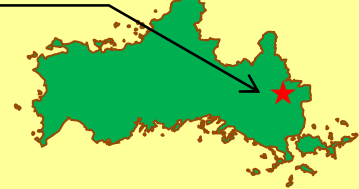
農地の荒廃を防ぐため、日本型直接支払制度などを活用し、環境保全型農業や侵入防止柵設置などの鳥獣害対策に取り組んできたが、高齢化による担い手不足により鳥獣を誘引する遊休農地や放任果樹、繁茂竹林などが増加し、大きな問題となっていた。

そこで、地区内の集落営農法人が中心となり、集落環境調査による現状分析を行い、今後の対応策を集落ぐるみで計画的に取り組んでいる。

2 地区の概要

地区名	岩国市美和町 志谷地区
戸数	29戸（うち、集落営農法人1法人）
耕作面積	8.6ha
主な作物	水稻、岸根栗
加害獣種	イノシシ、サル
対策実施年度	平成29年度、30年度、令和元年度

岩国市美和町 志谷地区



3 被害の状況と課題

- 川沿いの水田周辺に藪や繁茂竹林があり、イノシシの住処や通り道となっており、水田の被害につながっている。
- 侵入防止柵がサルやクマなどにより変形、破損した箇所があり、修繕が必要。
- 民家周辺に放任果樹があり、野生鳥獣を誘引している。



4 取組内容

(1) まず集落内の問題を確認

- 「鳥獣害に強い集落づくり事業」に取り組むにあたり、地区の過半を担う（農）いきいきファーム美和が主体となって、活動に参加する方向で調整した。
- 集落環境調査の前に集落が抱える課題を確認するため、鳥獣被害が多く、対策が必要な場所を重点的に巡回し、イノシシの住処や通り道となっている繁茂竹林やクマなどを誘引している放任果樹などを調査した。
- 県から集落環境調査の意義や手法の説明を受け、集落環境調査についての理解を深めた。

(2) 集落環境調査を実施し、被害マップを作成

- 地元、市、JA、県など関係者が3班に分かれ、集落環境調査を実施し、調査結果をもとに各班で被害マップを作製した。
- 各班から調査結果及び今後の対応などについて説明し、意見交換を図ることにより、今後集落で取り組む活動方針を作成した。



集落環境調査の実施



調査結果をもとに被害マップを作成



各班から結果発表、意見交換

(3) 実践活動

○主な取組として、平成29年度はイノシシが出入りしている繁茂竹林を伐採し緩衝帯を整備した。

○平成30年度は、侵入防止柵の破損箇所の点検、地図を作成し、補修を行った。

○猟友会に依頼し、イノシシ用箱わなやサル用大型囲いわなによる捕獲活動を実施した。

○令和元年度は、防護柵が未設置の隣接集落との境界に侵入防止柵を設置し、イノシシの侵入防止を図った。



繁茂竹林を伐採し緩衝帯整備



サル捕獲用大型囲いわなによる捕獲



侵入防止柵の補修

5 取組の成果

○集落営農法人が主体となって集落環境調査を行ったことにより、集落内の現状や課題の把握、今後の対策などが話し合われ、集落が一体となった被害防止活動を実施する体制づくりができた。

○猟友会と連携し、令和2年度から令和4年度の3年間で、イノシシを312頭、サルを2頭捕獲した。緩衝帯整備、侵入防止柵の補修・設置により、被害額は減少傾向にある。※令和4年度については家畜伝染病「豚熱」発生の影響もあり。

【被害額】

(千円)

区分	事業実施前 (平成29年度)	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
イノシシ	291	194	▲ 97	155	▲ 136	52	▲ 239
サル	149	109	▲ 40	93	▲ 56	37	▲ 112

6 地区代表者のコメント

○集落環境調査を行ったことで、集落内での鳥獣被害の対策機運が高まっている。

○緩衝帯整備、侵入防止柵の補修、隣接集落との境界に防護柵を設置したことにより、水田や栗園へのイノシシ等の被害が減り、効果を実感している。

○今後も引き続き、近隣集落と協力し侵入防止柵の補修点検等を行い、隣接集落と一体となって鳥獣被害対策に取り組んでいきたい。

7 今後の取組

緩衝帯整備、侵入防止柵の補修により、イノシシ等の侵入防止に高い効果があり、被害も減少した。

次年度以降も、周辺集落と連携した調査や対策を行い、侵入防止柵の整備等、広域的な被害防除対策を行っていく必要がある。